



乳がん検診も含む診療

ムスリムの村で続ける健康増進プロジェクト

FIDR(国際開発救援財団)の助成を受けた2005年度の事業も、3月28日に実施された女性対象の巡回診療(左写真)をもって無事終了しました。

ボランティア貯金寄附金配分を受けて実施したコミュニティースクール支援(2002年)、ファイバーリサイクルネットワーク助成による鍼灸クリニック開設事業(2003年)。このムスリム住民を対象とする事業は、続く2004年度も当会自己資金(中田基金)でつなぐことができました。

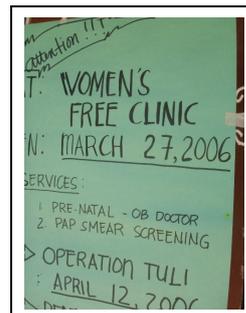
昨年度は①家庭訪問による住民指導 ②保健ボランティア研修 ③巡回診療、の3つを柱とする盛りだくさんの内容でしたが、現地事業主体 PIHS(パササンバオ総合医療サービス)の代表ナプサさんはじめ、PIHS スタッフ、村の保健ボランティア(Community Health Worker/CHW)の奮闘で、ほぼ予定した活動を事業期間内にこなすことができました。

国の医療・福祉分野の行政サービスが地方に分権されて以来10数年、赤字財政を理由に、特に社会的な差別を受けているムスリム地域の医療サービスの質と量はきわめて貧弱です。特に社会的弱者の子どもや妊産婦にそのしわ寄せがきているのです。

4年間の事業により、「薬草や鍼灸などの伝統医療を見直し、村の保健ボランティアを育成して、地域ぐるみで健康に」という意識の定着とそのシステムがかなり浸透してきました。

2006年度は今井記念海外協力基金の助成により、引き続きムスリムの村の健康増進のために事業を実施することが決まりました。

女性対象巡回診療の看板→



COWHEDこの1年の活動から

民族の伝統技術を受け継ぐ女性たちの組合 COWHED に対して、昨年度は先行投資のつもりで私たちのハンディクラフト事業収益の多くをその支援にまわしました。COWHED 自身が市場開拓のため動けるように資金面のバックアップです。以下は代表の Melchi Uyasan さんによる報告(4/25 付メール)です。抄訳をご紹介します。

まず2005年度に組合員が大幅に増加したことをご報告させていただきます。1年前に88名だった会員が現時点で101名になりました(退会1名、入会12名)。これら新入会の12名は、ほとんどがこの3月のセブとマニラの貿易フェアに製品を委託出品したのをきっかけに組合員になりました。

昨年度 HANDS 支援により参加した見本市、貿易フェア、工芸品市は、上記マニラの National Trade Fair やセブ島での Social Development Week in Ayala など主なものだけで5回、このほか組合サミット女性会議など地域レベルのものにもいくつか参加しました。

3月のマニラとセブでは、それぞれ、38,066ペソ(約8万円)と24,260ペソ(約5万円)の売り上げがあったほか、新たな注文も90,000ペソ分受けました。サンプルを送ってくれというバイヤーもいて新たな注文につながることを期待しています。さらに、通商産業省からもサンプルの送付や製品に対する問い合わせがあって、2-3ヵ月後には納品の予定です。

このような貴重なチャンスをつかむことができたのは、品揃えのための準備金、交通費、滞在費、出展料などについて HANDS からの資金援助があったからです。これまでは注文があっても、その材料を購入する資金が手元になくて、せっかくの機会をみすみ逃す場面がありました。今は売り上げが伸びたおかげで、次の生産の元手を確保できるようになりました。

組合活動のうち、店舗部門は仕入れができずに休業したままです。近い将来、ハンディクラフト事業の収益が安定したら、米や調味料、雑貨などの日用品を買い入れて、組合員により安く提供するという組合の生協機能を復活させたいと思います。店舗部門で収益が出れば組合員への配当金が出せます。

「夏の都」と呼ばれる避暑地でもあるレイクセブは、夏休みの今、合宿や研修のお客でにぎわっています。私たちが将来的には湖を見下ろす地点にある組合の用地に、ハンディクラフト館と宿泊もできる研修センターを建設したいと思っています。民族文化やハンディクラフトの紹介と販売に加えて、施設を研修会場として提供することで組合は収入を見込めますし、女性たちに働く場を提供できます。このように組合運営を多角化することで、組合員や地域の先住民族女性たちの生活向上を実現できたらと考えています。

(文責・山崎)